

(単純集計版)

# 介護保険認定者実態調査

## (面接調査)の結果

～第8期介護保険事業計画の策定に向けて～

2020年3月

<小牧市>

# 介護保険認定者実態調査の概要

## ①調査の目的

「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労継続」に有効な介護サービスのあり方を検討するための調査として実施

## ②調査対象

「在宅で生活をしている要支援・要介護認定を受けている高齢者の方」で令和元年5月から10月に介護認定の更新申請をされた方

## ③調査期間

令和元年5月から令和元年10月

## ④調査方法

認定調査員による聞き取り調査

## ⑤回収状況

	配布数	回収数	無効票	有効票	回収率
介護保険認定者 (面接調査)	629	629	2	627	100%

# 目次

1 基本調査項目（A票）	[P. 1]
(1) 世帯類型	[P. 1]
(2) 家族等による介護の頻度	[P. 1]
(3) 主な介護者の本人との関係	[P. 2]
(4) 主な介護者の性別	[P. 2]
(5) 主な介護者の年齢	[P. 3]
(6) 主な介護者が行っている介護	[P. 4]
(7) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 5]
(8) 介護のための離職の有無	[P. 6]
(9) 保険外の支援・サービスの利用状況	[P. 6]
(10) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	[P. 7]
(11) 施設等検討の状況	[P. 8]
(12) 本人が抱えている傷病	[P. 9]
(13) 訪問診療の利用の有無	[P. 10]
(14) 介護保険サービスの利用の有無	[P. 11]
(15) 介護保険サービス未利用の理由	[P. 11]
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	[P. 12]
(1) 主な介護者の勤務形態	[P. 12]
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	[P. 12]
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	[P. 14]
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 15]
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 16]
3 要介護認定データ	[P. 17]
(1) 年齢	[P. 17]
(2) 性別	[P. 17]
(3) 二次判定結果（要介護度）	[P. 18]
(4) サービス利用の組み合わせ	[P. 19]
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	[P. 20]
(6) 通所系サービスの合計利用回数	[P. 20]
(7) 短期系サービスの合計利用回数	[P. 21]
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	[P. 21]
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	[P. 22]

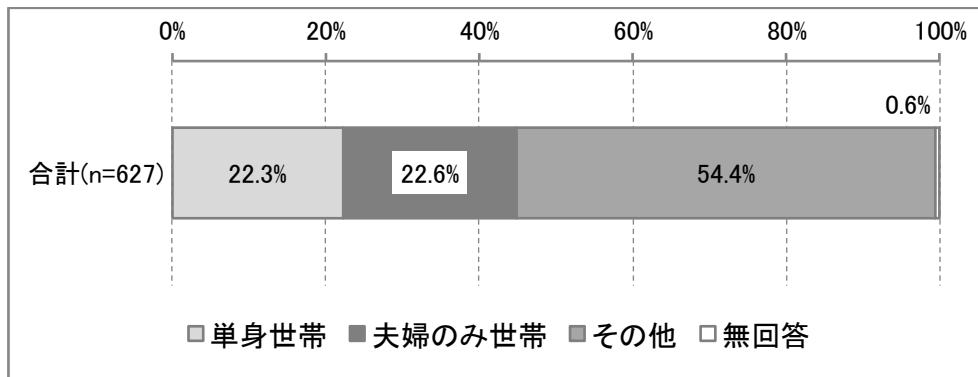


# 1 基本調査項目（A票）

## (1) 世帯類型

世帯類型は、単身世帯が 22.3%、夫婦のみ世帯が 22.6%、その他が 54.4%となっています。

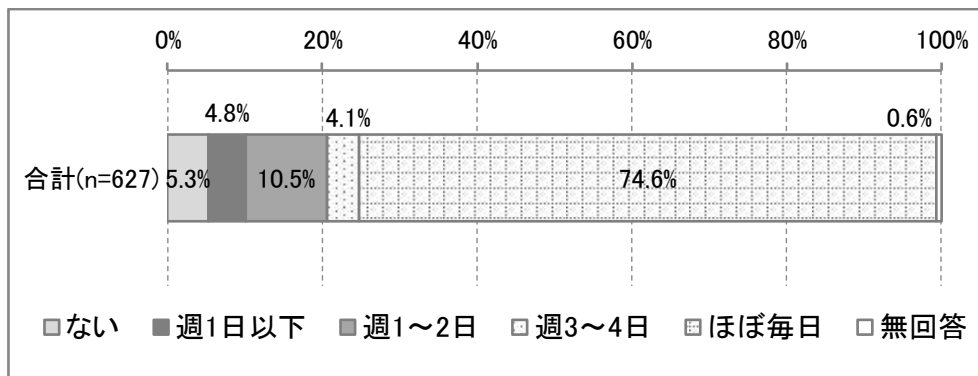
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



## (2) 家族等による介護の頻度

家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日」が 74.6%と最も高く、次いで「週 1～2 日」が 10.5%となっています。一方、「ない」（5.3%）や「週 1 回以下」（4.8%）は合わせて約 1 割となっています。

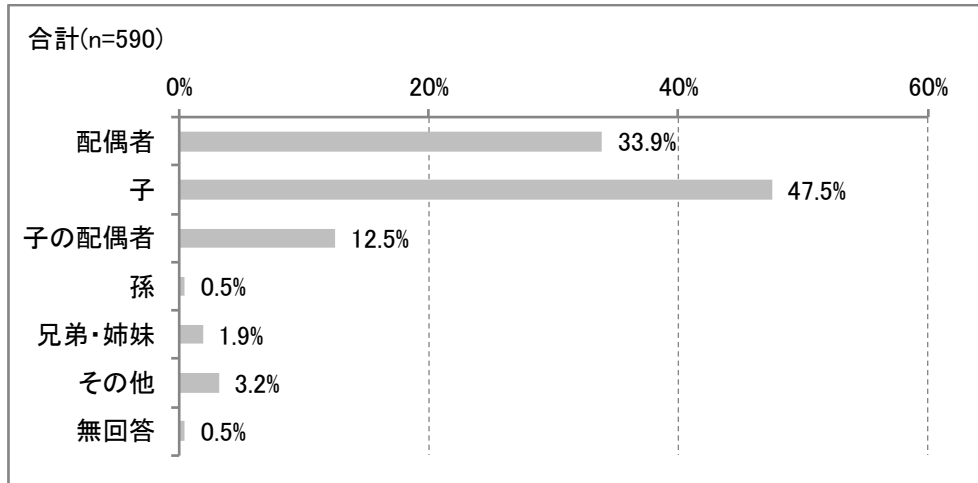
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



### (3) 主な介護者の本人との関係

主な介護者は、本人の「子」が47.5%と最も高く、次いで本人の「配偶者」が33.9%。「子の配偶者」が12.5%となっています。

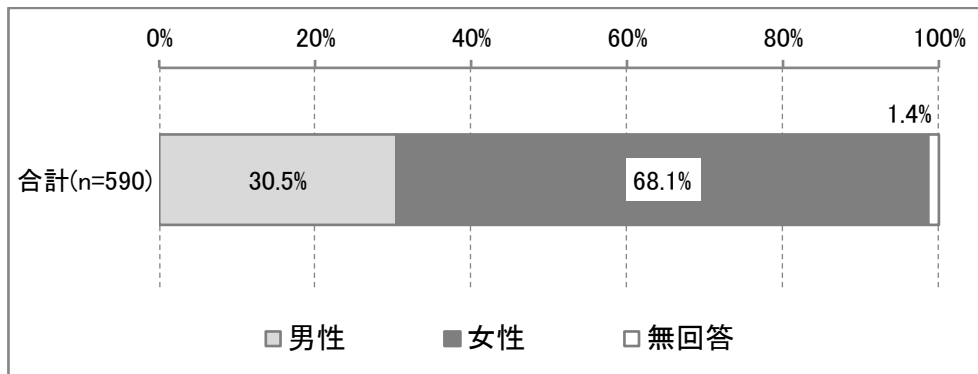
図表 1-3 主な介護者の本人との関係（単数回答）



### (4) 主な介護者の性別

主な介護者の性別は、「女性」（68.1%）約7割を占めています。

図表 1-4 主な介護者の性別（単数回答）

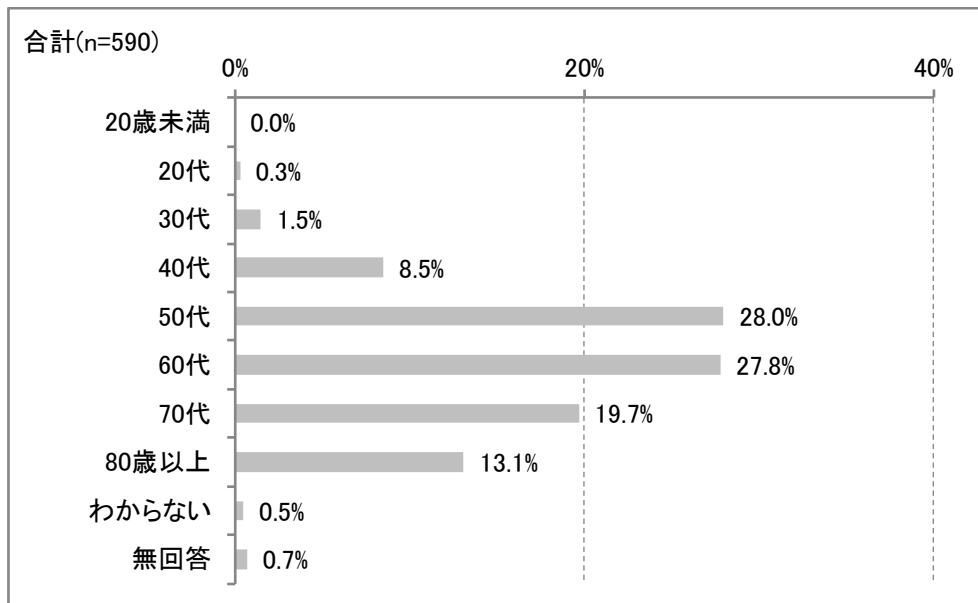


### (5) 主な介護者の年齢

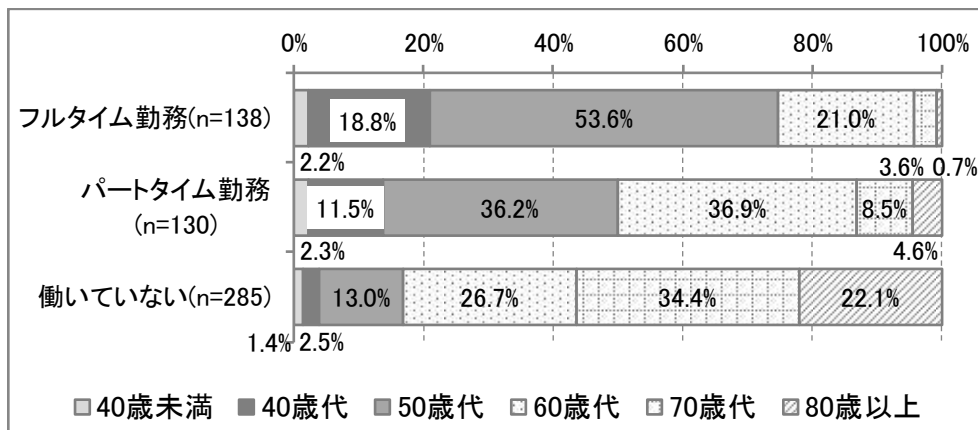
主な介護者の年齢は、「50代」（28.0%）と「60代」（27.8%）で半数強を占めています。その他「70代」19.7%、「80歳以上」13.1%が高くなっています。

就労状況別にみると、フルタイム勤務では「50代」が、パートタイム勤務では「60代」が、働いていないでは「70代」が最も高くなっています。

図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



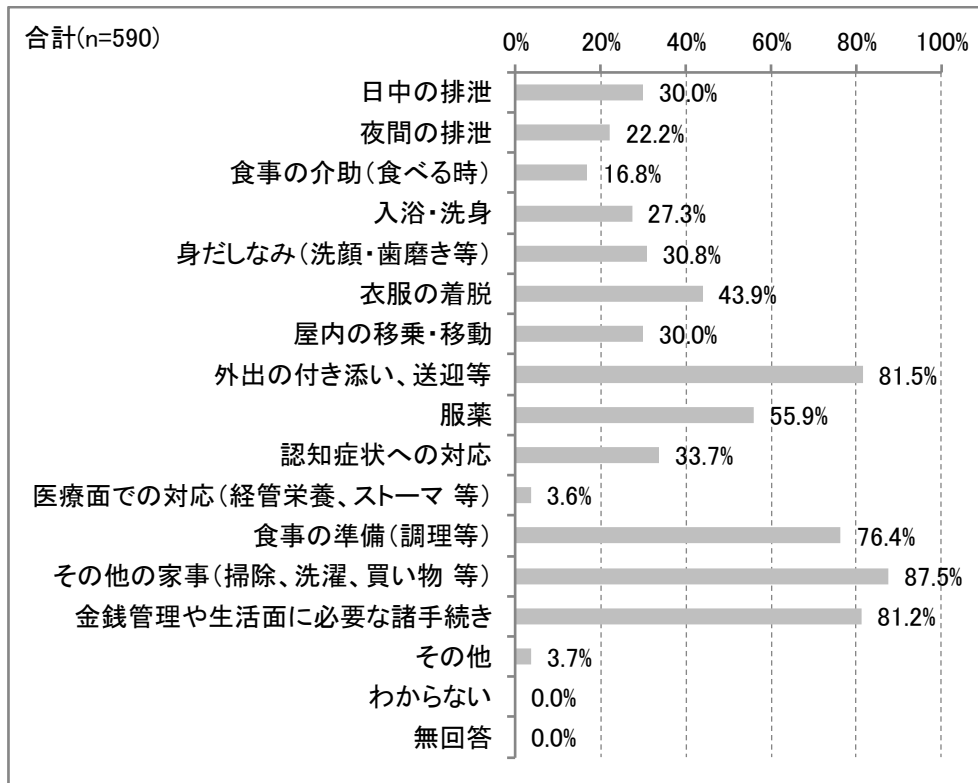
図表 1-6 就労状況別・主な介護者の年齢



## (6) 主な介護者が行っている介護

主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」（87.5%）、「外出の付き添い、送迎等」（81.5%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（81.2%）、「食事の準備（調理等）」（76.4%）などが上位にあがっています。

図表 1-7 主な介護者が行っている介護（複数回答）

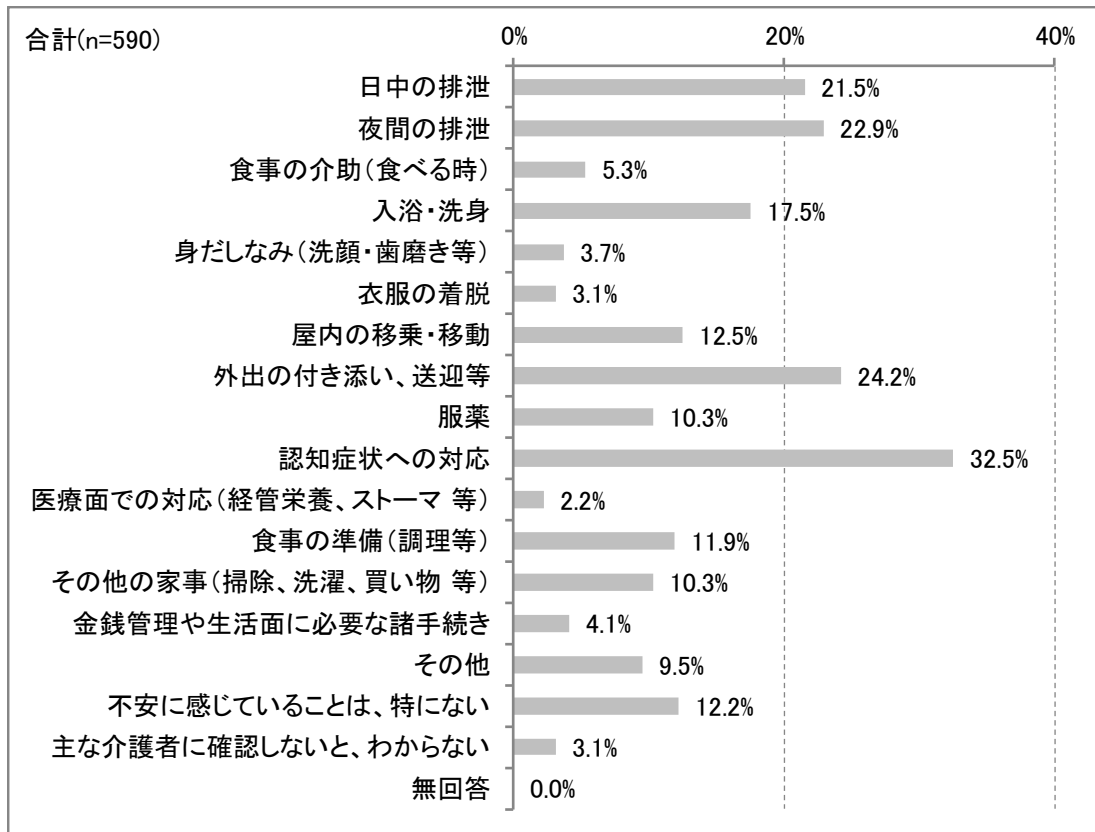




**(7) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護**

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「認知症への対応」(32.5%)、「外出の付き添い、送迎等」(24.2%)、「夜間の排泄」(22.9%)、「日中の排泄」(21.5%)などが上位にあがっています。

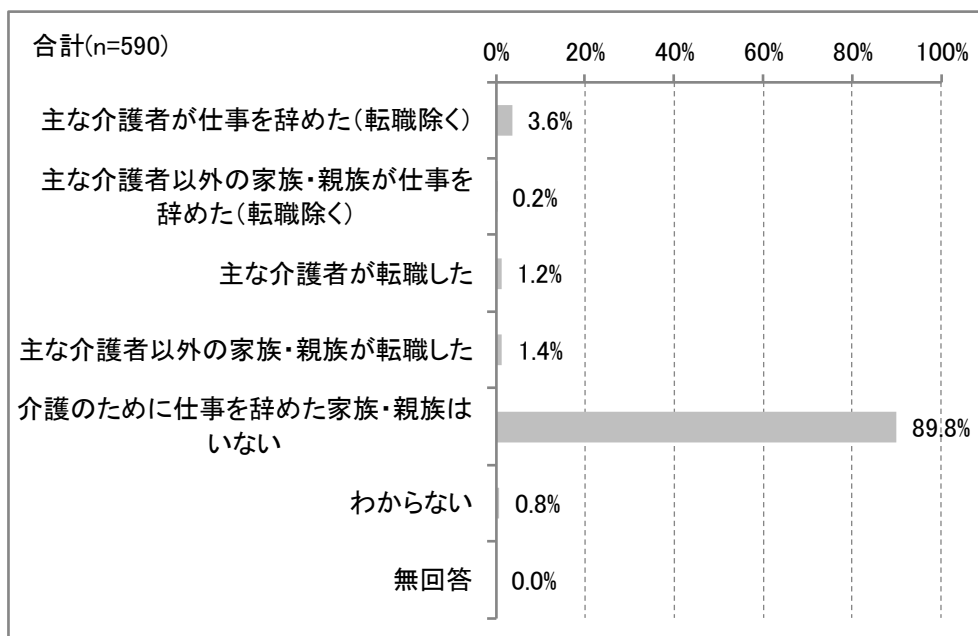
図表 1-7 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



## (8) 介護のための離職の有無

介護のための離職の有無は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が89.8%と大半を占めています。一方、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（3.6%）や「主な介護者が転職した」（1.2%）と合わせて4.8%います。

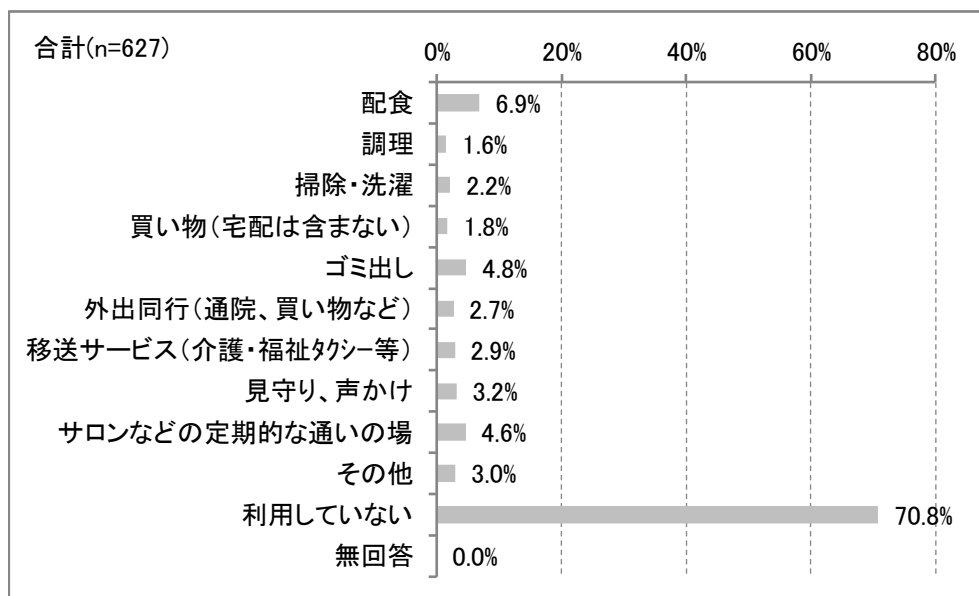
図表 1-8 介護のための離職の有無（複数回答）



## (9) 保険外の支援・サービスの利用状況

保険外の支援・サービスの利用状況は、「利用していない」が70.8%と最も高くなっています。利用しているものでは、「配食」（6.9%）、「ゴミ出し」（4.8%）、「サロンなど定期的な通いの場」（4.6%）などとなっています。

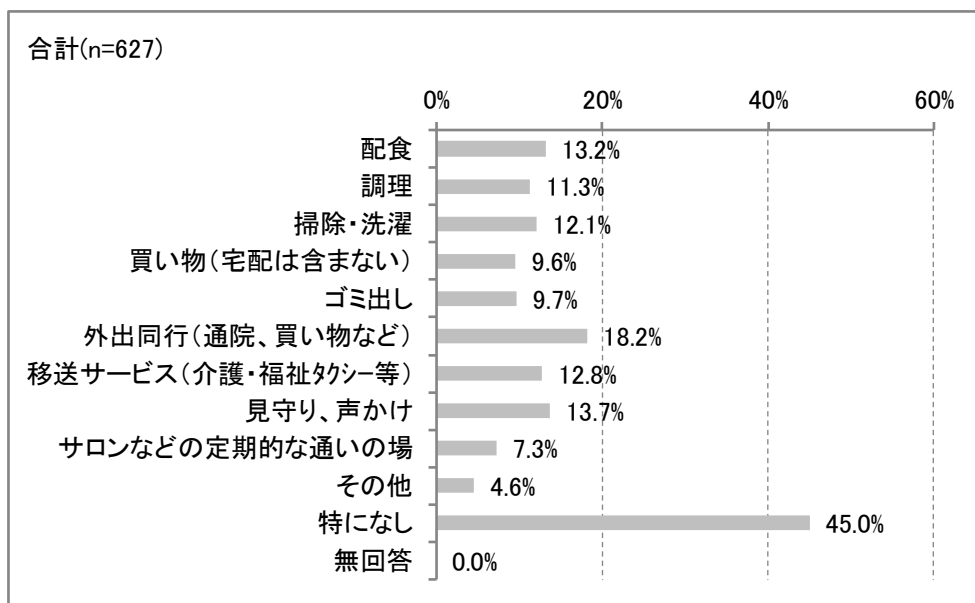
図表 1-9 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



## (10) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

在宅生活の継続のために充実が必要なサービスは、「特になし」が45.0%と最も高くなっています。必要なものでは、「外出同行（通院、買い物など）」（18.2%）、「見守り、声かけ」（13.7%）、「配食」（13.2%）などとなっています。

図表 1-10 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

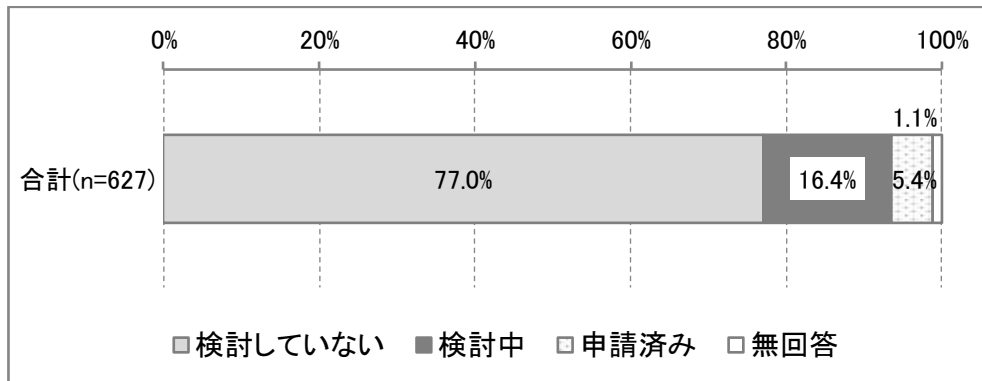


### (11) 施設等検討の状況

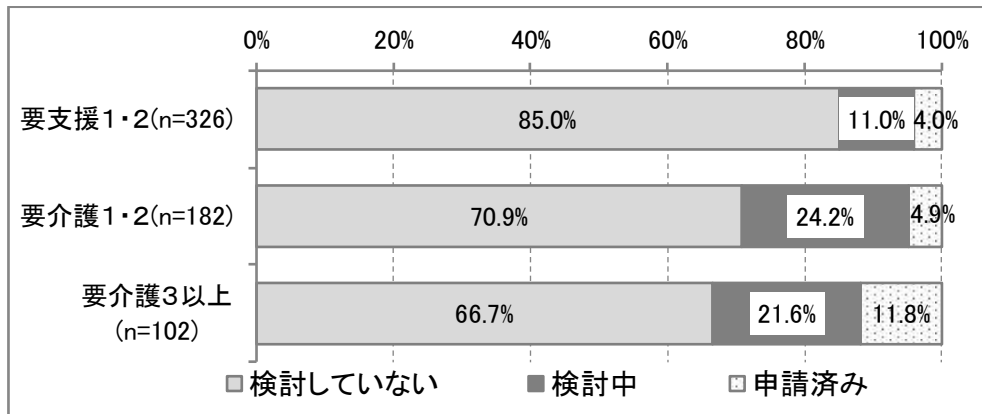
施設等検討の状況は、「検討していない」が77.0%となっています。「検討中」は16.4%、「申請済み」は5.4%となっています。

要介護度別にみると、どの要介護度でも「検討していない」が最も高くなっていますが、要介護3以上では「申請済み」の人が約12%います。

図表 1-11 施設等検討の状況（単数回答）



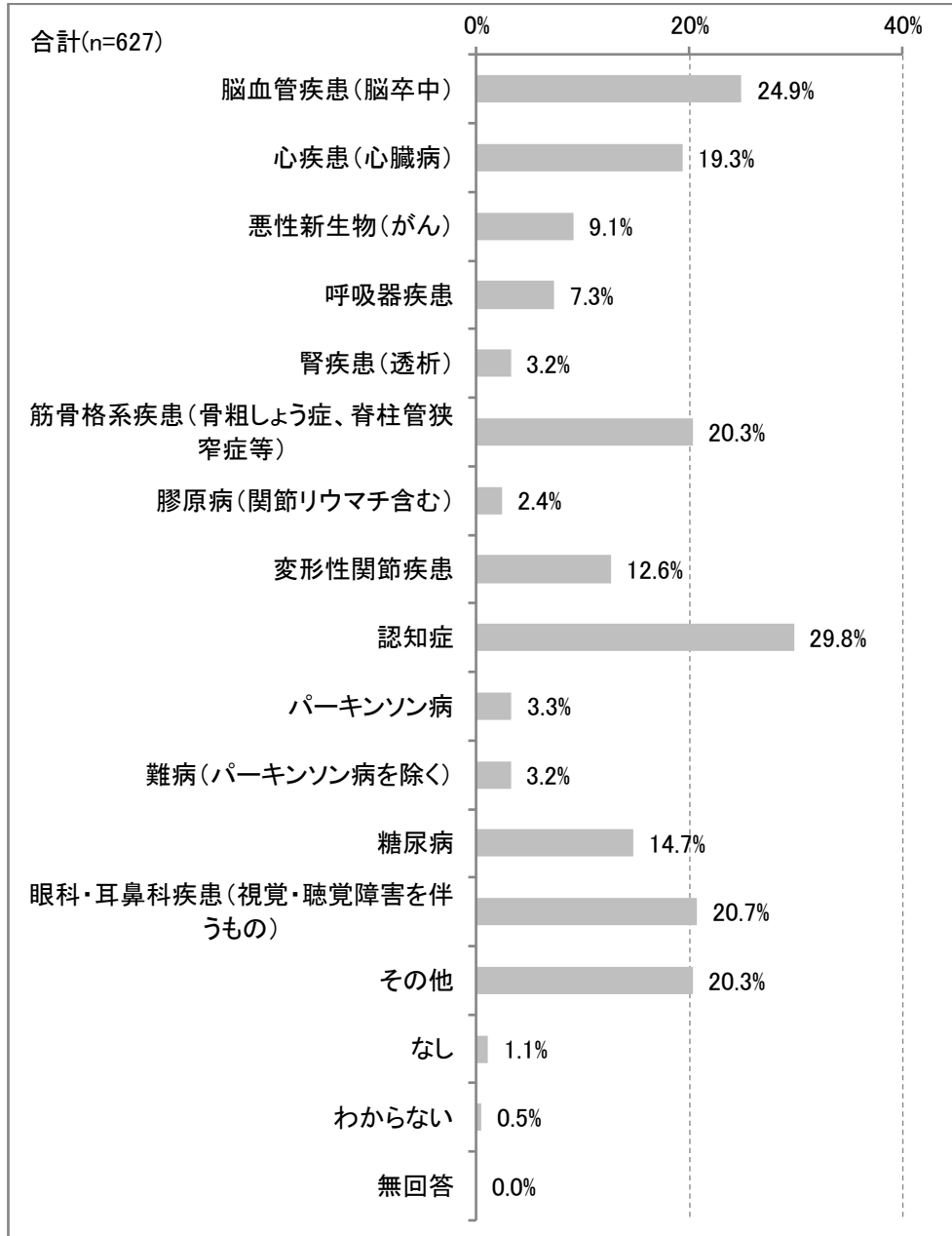
図表 1-12 要介護度別・施設等検討の状況



## (12) 本人が抱えている傷病

本人が抱えている傷病は、「認知症」が 29.8%と最も高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」（24.9%）、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（20.7%）などとなっています。

図表 1-13 本人が抱えている傷病（複数回答）

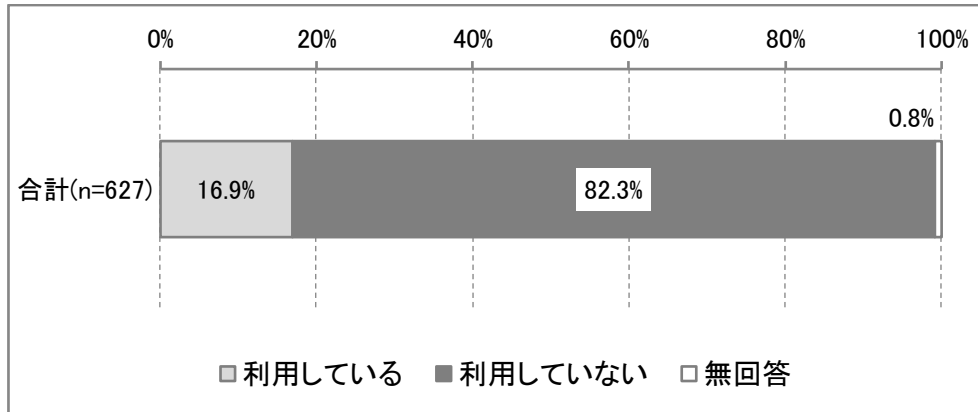


### (13) 訪問診療の利用の有無

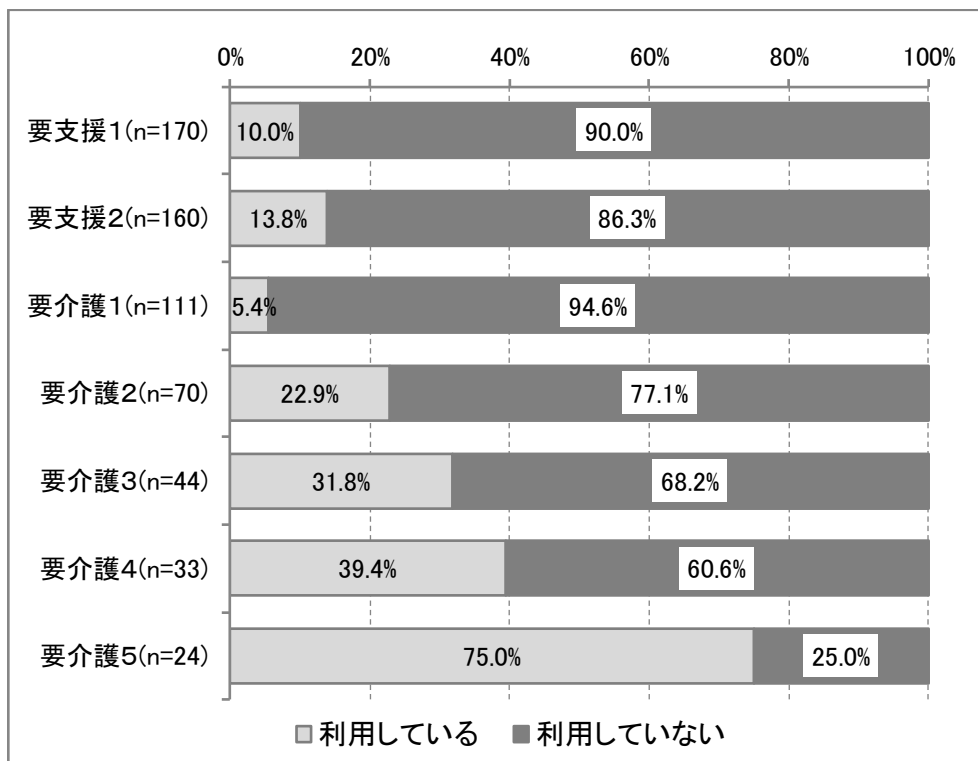
訪問診療の利用の有無は、「利用している」が16.9%、「利用していない」が82.3%となっています。

要介護別にみると、要介護2以上では、要介護度が高くなるにつれて利用している割合が高くなり、要介護度5では、75.0%が利用しています。

図表 1-14 訪問診療の利用の有無（単数回答）



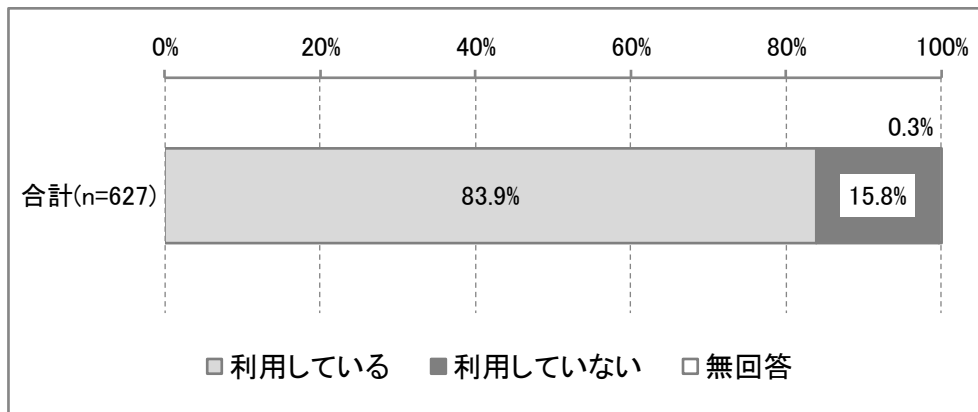
図表 1-15 要介護度別・訪問診療の利用割合



#### (14) 介護保険サービスの利用の有無

介護保険サービスの利用の有無は、「利用している」が83.9%、「利用していない」が15.8%となっています。

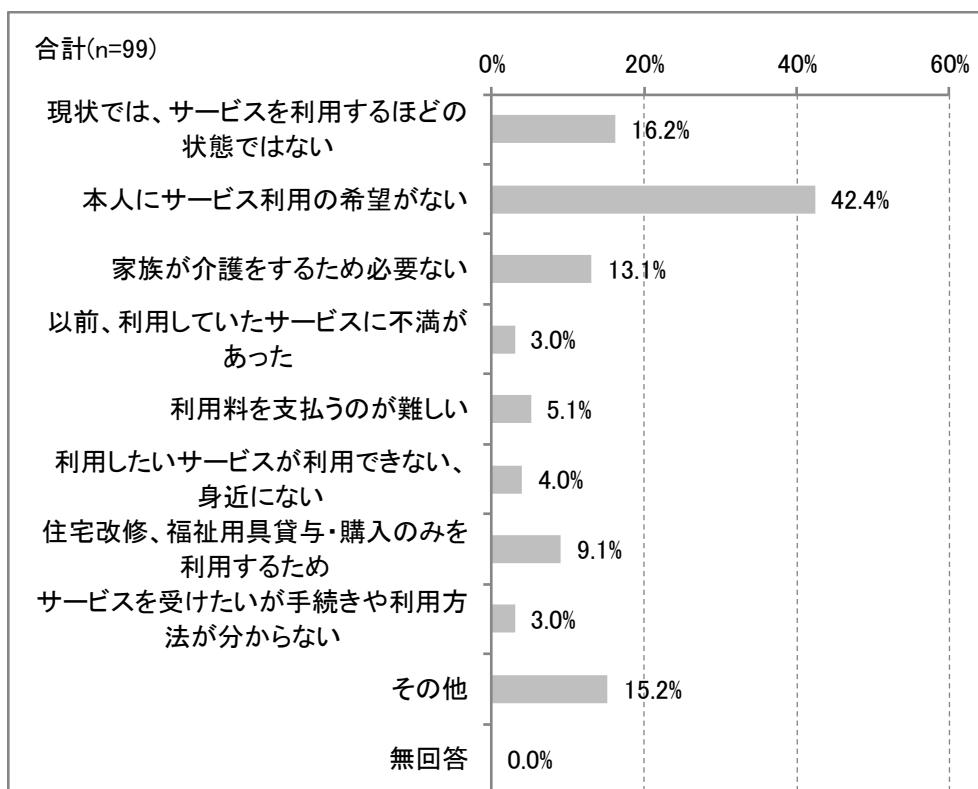
図表 1-16 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



#### (15) 介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービス未利用の理由は、「本人にサービス利用の希望がない」が42.4%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」（16.2%）、「家族が介護をするため必要ない」（13.1%）などとなっています。

図表 1-17 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

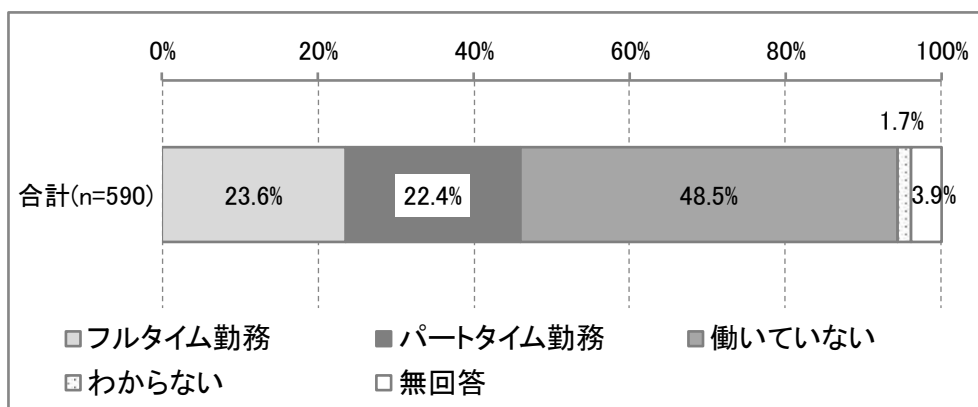


## 2 主な介護者様用の調査項目（B票）

### (1) 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態は、「フルタイム勤務」が 23.6%、「パートタイム勤務」が 22.4%で、46%が働いています。

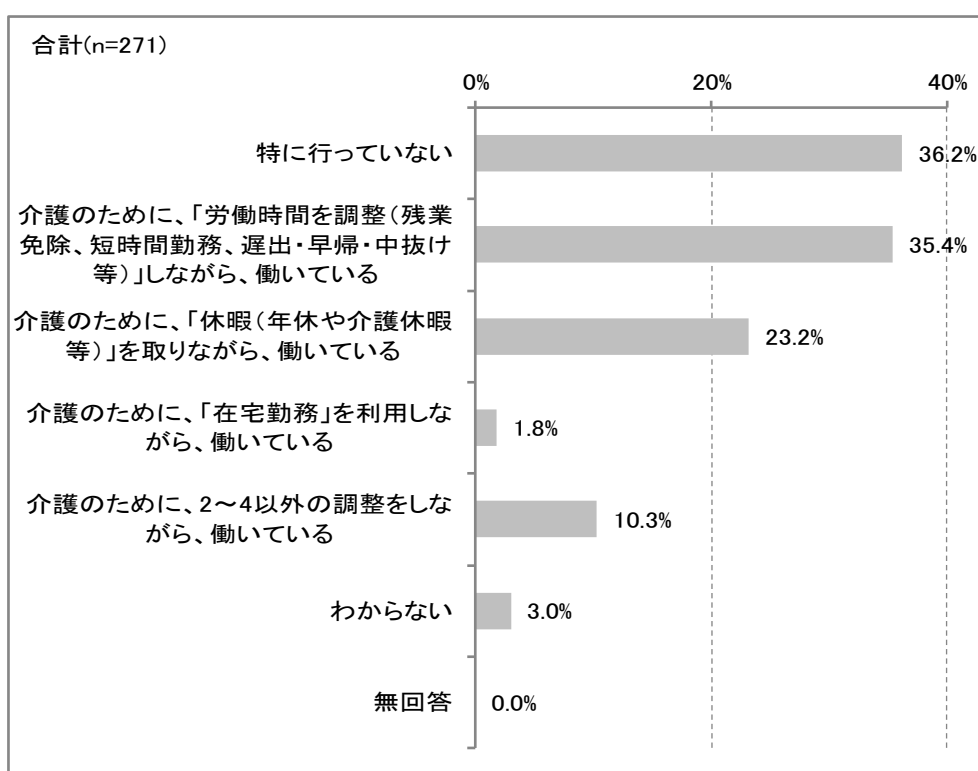
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



### (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

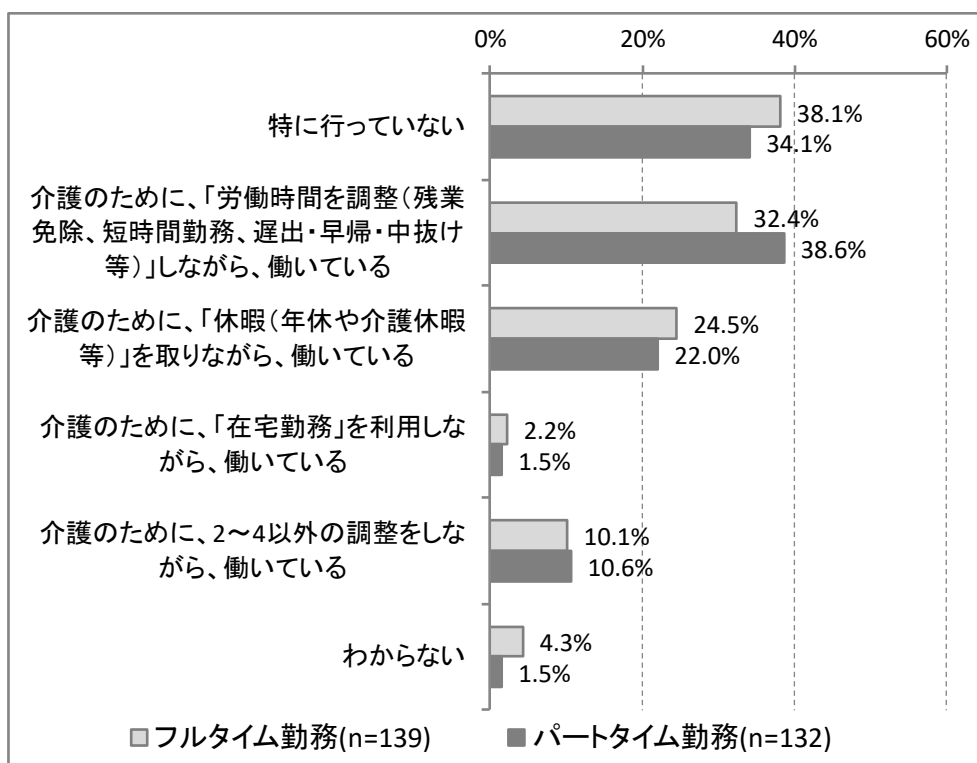
主な介護者の働き方の調整の状況は、「特に行っていない」が 36.2%であるのに対し、何らかの調整を行っているのは 60.8%であり、中でも「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（35.4%）、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（23.2%）が高くなっています。

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）





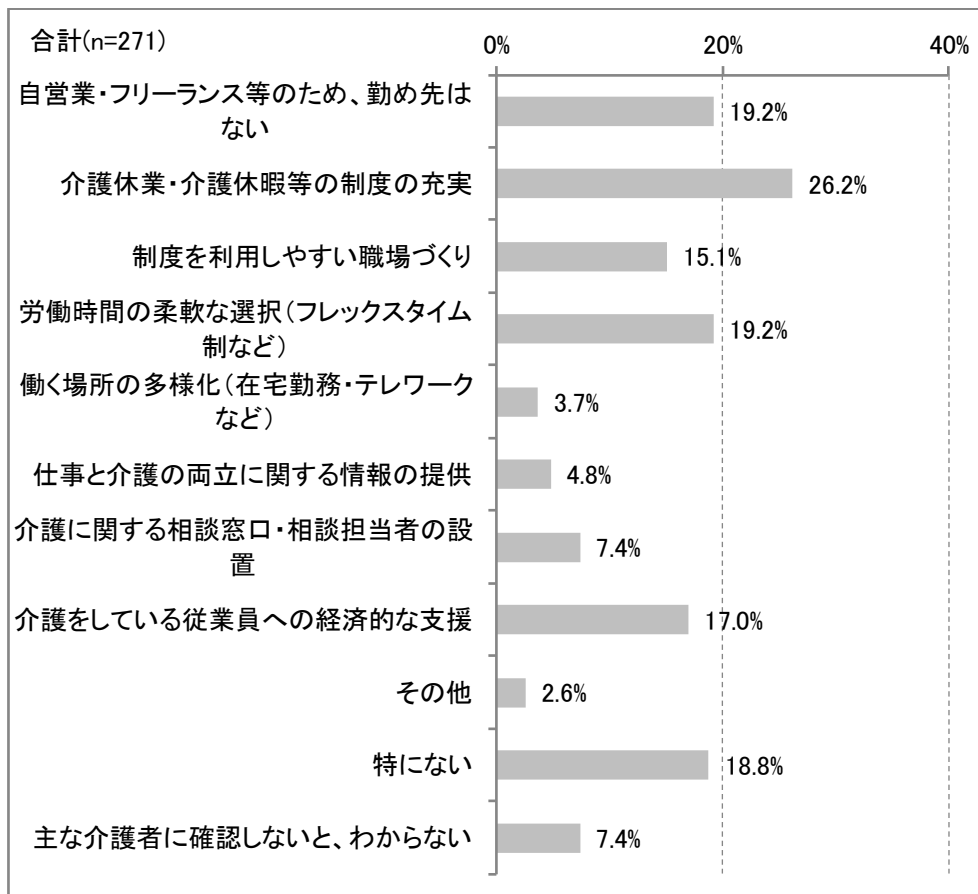
図表 2-3 就労状況別・介護のための働き方の調整



### (3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.2%と最も高く、次いで「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（ともに19.2%）、「介護をしている従業員への経済的な支援」（17.0%）などとなっています。「特になし」とする人も18.8%います。

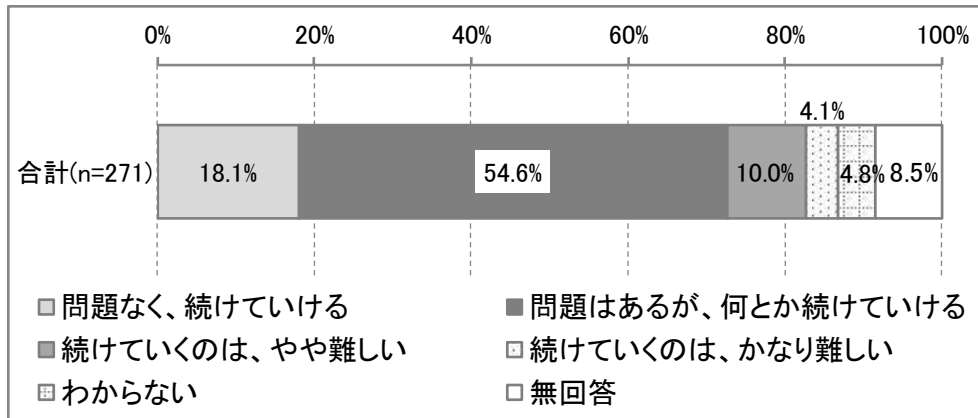
図表 2-4 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



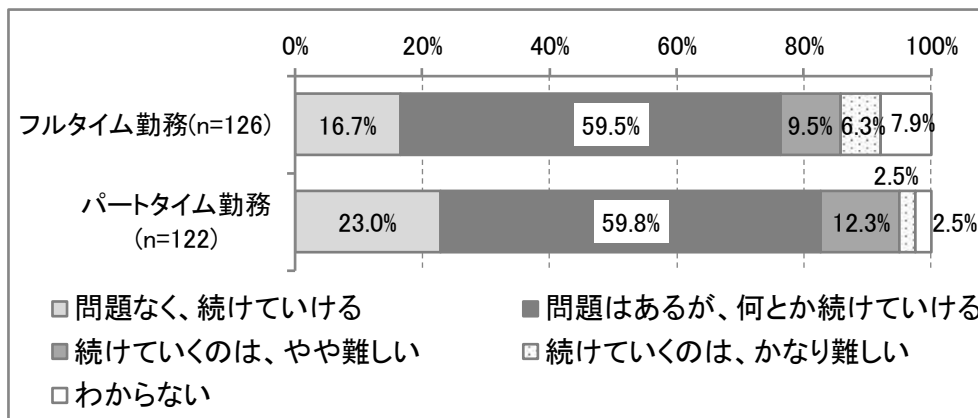
#### (4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

主な介護者で現在の就労継続の可否に係る意識は、「続けていける」（「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」）が72.7%、「続けていくのは難しい」（「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」）が14.1%となっています。

図表 2-5 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



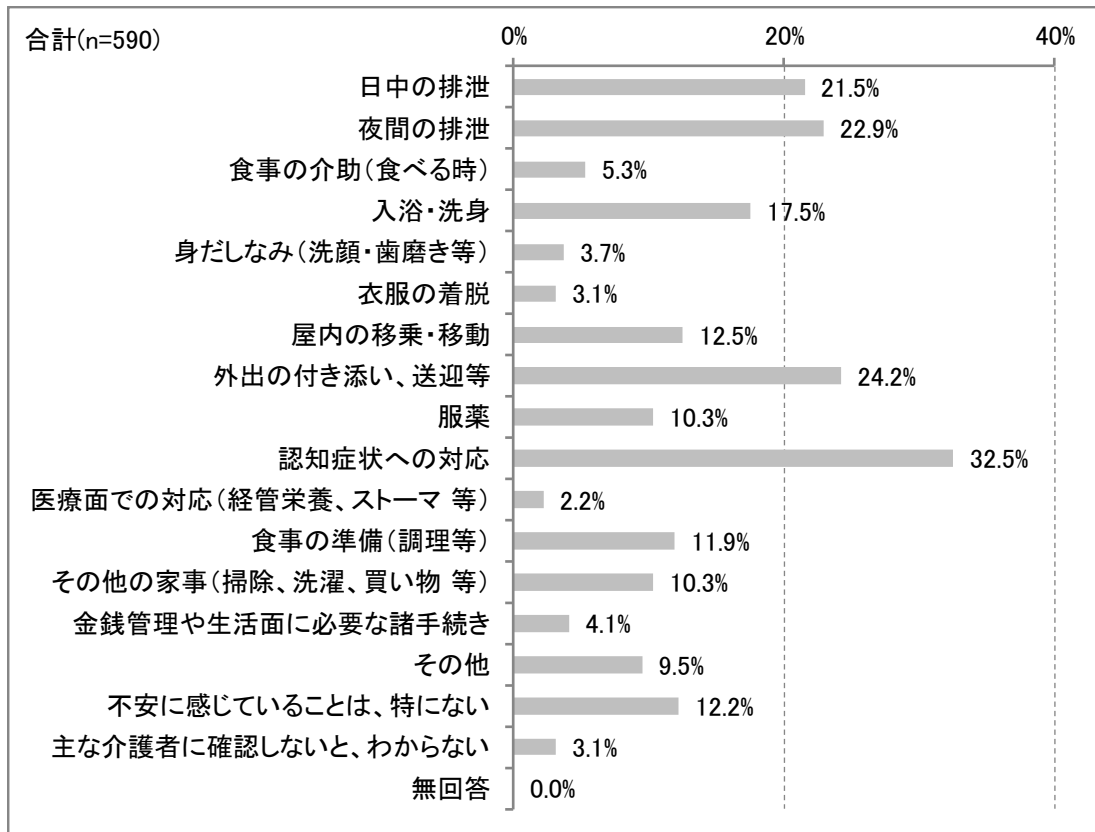
図表 2-6 就労状況別・就労継続見込み



**(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護**

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「認知症への対応」(32.5%)、「外出の付き添い、送迎等」(24.2%)、「夜間の排泄」(22.9%)、「日中の排泄」(21.5%)などが上位にあがっています。

図表 2-7 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

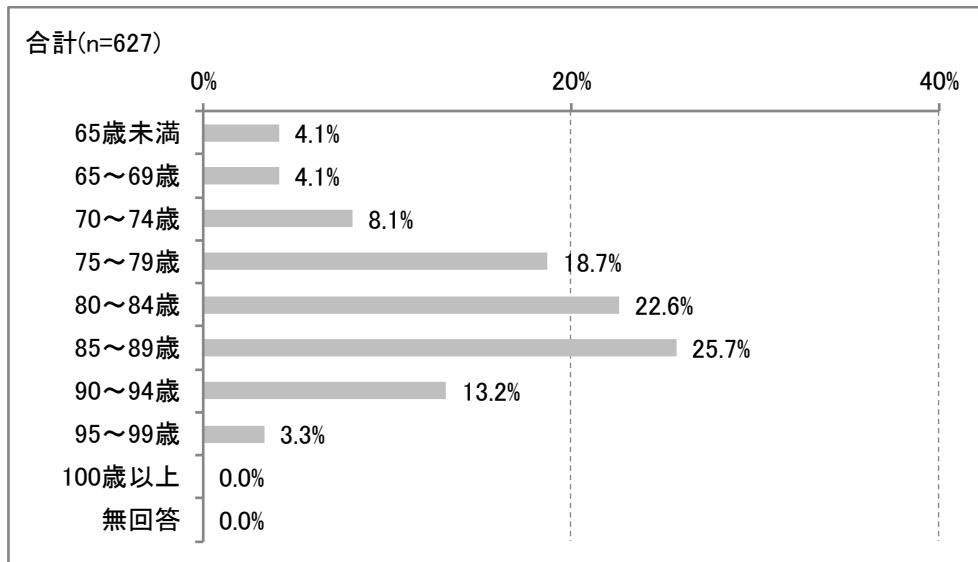


### 3 要介護認定データ

#### (1) 年齢

要介護者の年齢は、「85～89歳」が25.7%と最も高く、次いで「80～84歳」（22.6%）、「75～79歳」（18.7%）などとなっています。

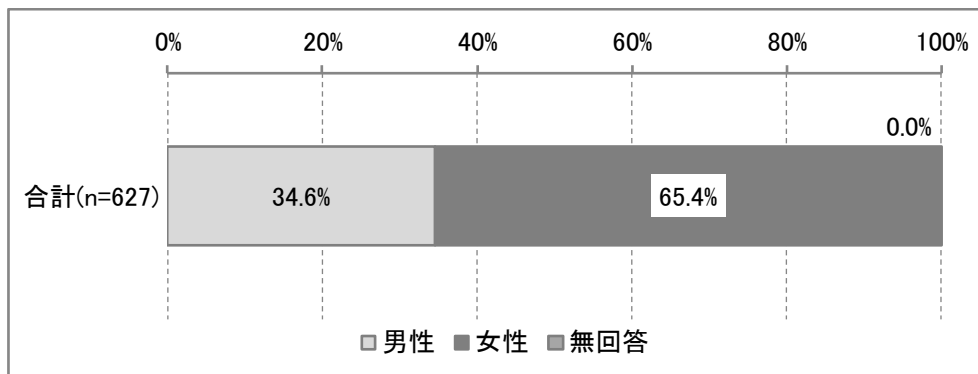
図表 3-1 年齢



#### (2) 性別

要介護者の性別は、「男性」34.6%、「女性」（65.4%）となっています。

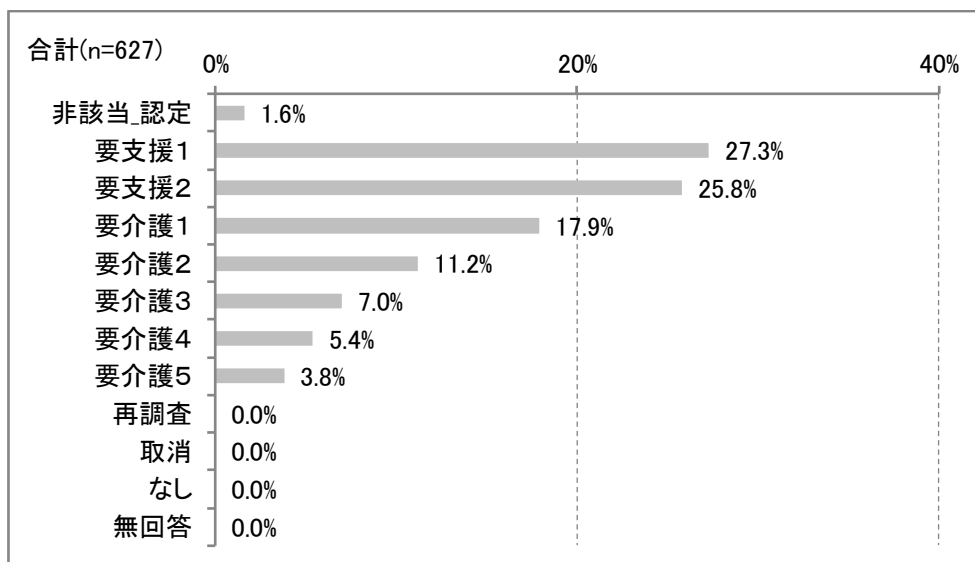
図表 3-2 性別



### (3) 二次判定結果（要介護度）

二次判定結果（要介護度）は、「要支援1」が27.3%と最も高く、次いで「要支援2」（25.8%）、「要介護1」（17.9%）などとなっています。

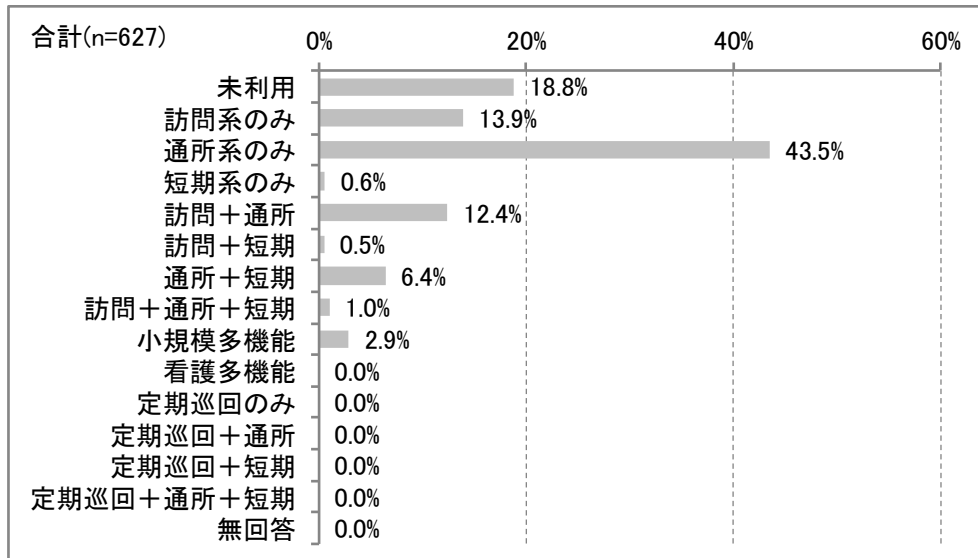
図表 3-3 二次判定結果



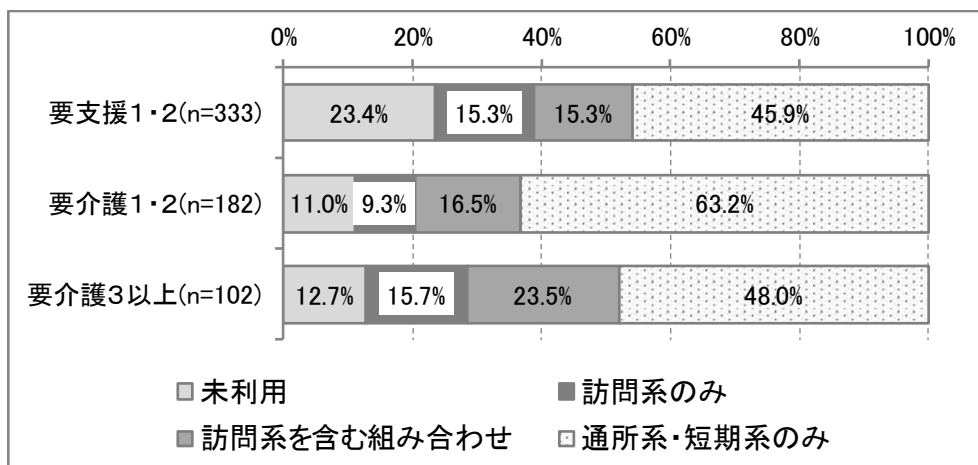
#### (4) サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせは、「通所系のみ」が43.5%と最も高く、次いで「訪問系のみ」(13.9%)、「訪問+通所」(12.4%)などとなっています。「未利用」は18.8%となっています。

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



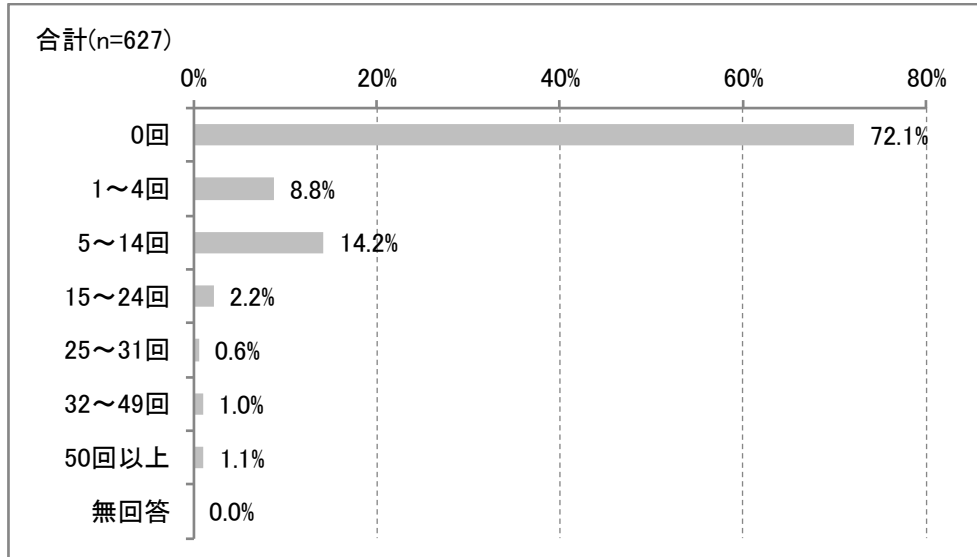
図表 3-5 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



### (5) 訪問系サービスの合計利用回数

訪問系サービスの合計利用回数は、「0回」が72.1%と最も高くなっています。利用回数が多いものは「5～14回」(14.2%)、「1～4回」(8.8%) などとなっています。

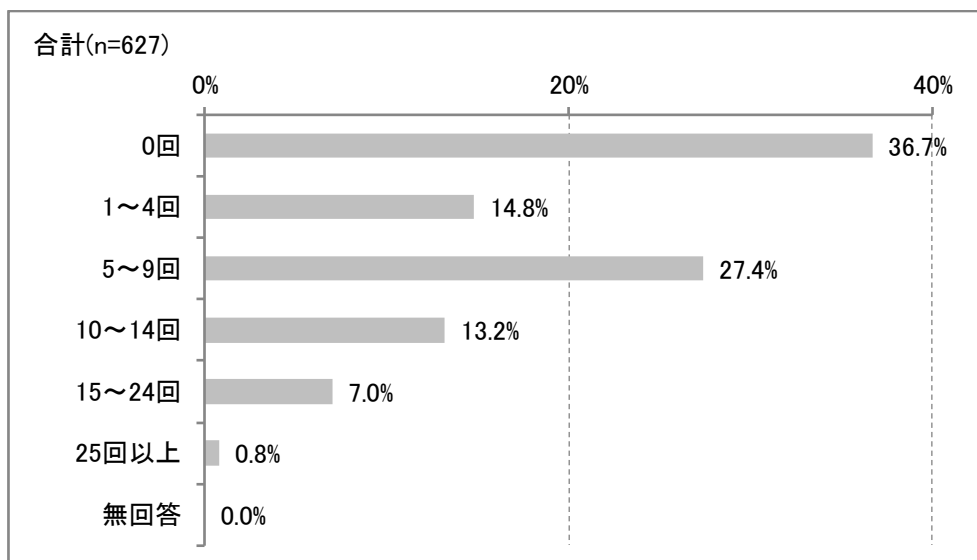
図表 3-6 サービスの利用回数（訪問系）



### (6) 通所系サービスの合計利用回数

通所系サービスの合計利用回数は、「0回」が36.7%と最も高くなっています。利用回数が多いものは「5～9回」(27.4%)、「1～4回」(14.8%)、「10～14回」(13.2%) などとなっています。

図表 3-7 サービスの利用回数（通所系）

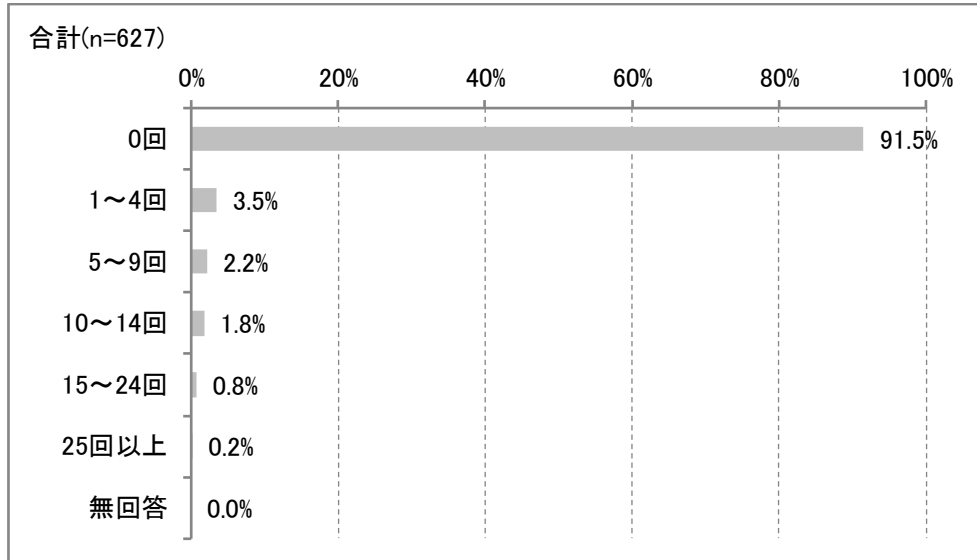




### (7) 短期系サービスの合計利用回数

短期系サービスの合計利用回数は、「0回」が91.5%と最も高くなっています。利用回数が多いものは「1～4回」(3.5%)、「5～9回」(2.2%)、「10～14回」(1.8%) などとなっています。

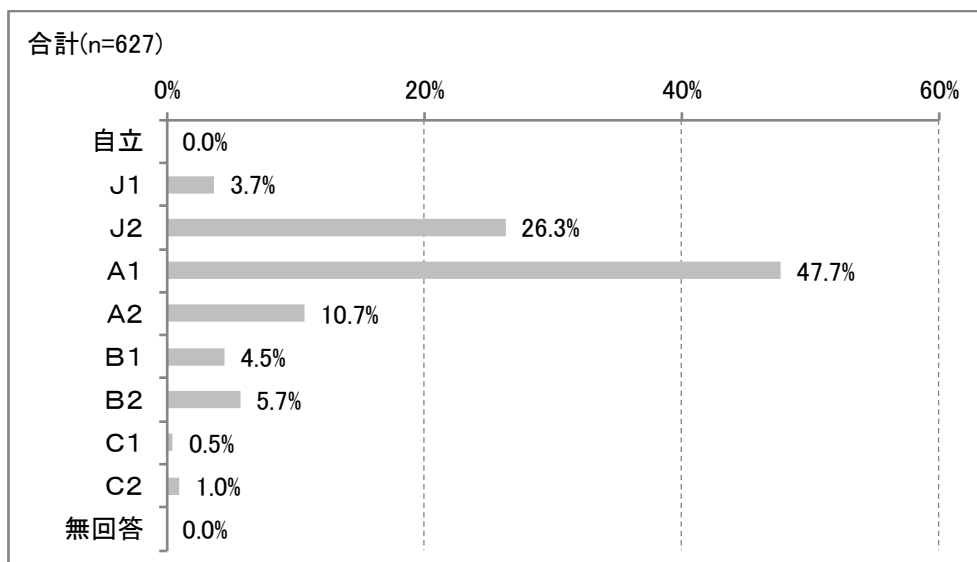
図表 3-8 サービスの利用回数 (短期系)



### (8) 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度は、「A 1」が47.7%と最も高く、次いで「J 2」(26.3%)、「A 2」(10.7%)、「B 2」(5.7%) などとなっています。

図表 3-9 障害高齢者の日常生活自立度



### (9) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度は、「I」が39.7%と最も高く、次いで「自立」(30.1%)、「IIa」(14.2%)、「IIb」(13.6%)などとなっています。

図表 3-10 認知症高齢者の日常生活自立度

